

令和7年度「福島市地域クラブ活動推進協議会」議事録

日時 令和7年7月25日（金）15:00～16:30
場所 キョウワグループ・テルサホール 研修室 つきのわ

☆ 委嘱状交付 （机上配付）

1 開会のことば（進行：後藤係長）

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

国立大学法人福島大学 教授	小川 宏（おがわ ひろし）様
福島地区中学校長会 会長	渡部 正晴（わたなべ まさはる）様
福島地区小学校長会 会長	小川 尚子（おがわ なおこ）様
福島支部中学校体育連盟 会長	佐藤 力夫（さとう りきお）様
福島第三中学校 教諭	草野 温子（くさの あつこ）様
清水中学校 教諭	本田 純也（ほんだ じゅんや）様
福島市ソフトテニス協会 理事長	菊田 悟（きくた さとる）様
福島市ソフトボール協会 理事長	矢吹 淳（やぶき あつし）様
スポーツ少年団 代表	遠藤 亨恵（えんどう ゆきえ）様
福島市地区スポーツ連盟 副会長	小野 孝二（おの こうじ）様 ※欠席
福島市文化団体連絡協議会 理事	吉田 美智子（よしだ みちこ）様
福島市小中学校 PTA 連合会 常任理事	皆川 沙織（みなかわ さおり）様
福島市小中学校 PTA 連合会 副会長	齋藤 智之（さいとう ともゆき）様 ※欠席

4 会長、副会長選出

会長に福島地区中学校長会会長 渡部 正晴委員、副会長に福島支部中学校体育連盟会長 佐藤 力夫委員が選出された。

5 説明事項

（1）福島市地域クラブ活動推進協議会の目的について（事務局）

- ・少子化の進展により、部活動数が減少傾向にある。子どもたちがスポーツや文化芸術活動に継続して取り組むためには、地域における新たなスポーツや文化芸術活動の環境を整えていくことが必要である。
- ・様々な立場の委員に参加いただいている。様々な視点から、中学校の部活動の地域展開や地域クラブ活動の環境整備について、総合的に協議することを目的とする。
- ・協議会の内容は、市のウェブサイト等で公開していく予定である。

(2) 国の方針及び本市のこれまでの取組について（事務局）

- ・国は令和 5 年度から令和 7 年度を「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動の地域展開を推進。令和 8 年度から令和 13 年度を「改革実行期間」とし、休日については原則として全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す。
- ・福島市では令和 5 年度から、剣道、陸上、吹奏楽などで競技団体等が主催する週末合同練習会を実施してきた。今年度は卓球が追加される予定である。
- ・これらの練習会は希望者による個人参加形式で、参加費は 1 回あたり 500 円前後である。
- ・文化部についても、吹奏楽連盟による練習会を令和 5 年度にスタートした。その後、合唱と美術でも開始。合唱については連盟等ではなく、教員を退職した方がクラブを運営し、現在、月 2 回程度練習会を開催している。
- ・今年度は 5 月から、コーディネーターを 1 名、任用している。コーディネーターは、各団体との連絡調整などを担当している。
- ・競技団体主催の練習会の成果としては、専門的な指導を受けることができる、生徒同士の交流ができる、学校の部活動にない種目の活動に参加できる等が挙げられる。課題としては、競技団体の運営資金の確保、会場の確保、運営に関する競技団体の負担などが挙げられた。
- ・現在実施している練習会は、どの活動も市内 1 か所での開催である。市内の複数地域で実施するとなれば、競技団体の負担が増え、この練習会自体が持続可能なものではなくなってしまうと考えている。
- ・福島市では平成 30 年度から「部活動の在り方検討委員会」を実施してきた。その中では、目指す姿として、将来にわたり、子どもたちがスポーツや文化芸術に継続して親しむ環境や機会を確保していくこと、それによって多様な体験の機会を確保することが確認されてきた。
- ・福島市における部活動地域展開の方向性について、まずは休日の部活動を地域展開していくことが話し合われた。様々なクラブや取組を統括する団体を設立し、そこにコーディネーターを配置していくこと、中学校に設置されている部活動にある種目のクラブを設置することなどについて、昨年度までに話し合われてきた。
- ・課題については、持続可能な財政基盤の整備や人材の確保、実施の時期、責任の所在、保護者・地域の方への情報発信などが挙げられた。
- ・市内の生徒数は年々減少しており、単独校ではチームを編成できないケースが増加している。今年度の中体連大会には、8 種目 20 校が合同チームとして参加した。
- ・今年度の本市の部活動加入率は、運動部が 62%、文化部が 26%、未加入が 12%であった。

(矢吹委員)

令和 6 度までの「部活動の在り方検討委員会」において、福島市における部活動地域展開の方向性が決まったという説明があったが、その経緯をもう少し詳しく聞かせていただきたい。

(事務局)

方向性は、まだ決定事項ではない。本協議会で改めて提案し、協議を進める予定である。

6 協議（議長：渡部会長）

（１）部活動地域展開に向けた実態調査アンケートの結果について（事務局）

① 小学生（５・６年生）の回答について

- ・約５割の児童が、校外の地域クラブ（スポーツ、文化活動など）に参加している。
- ・約７割の児童が、中学校進学後に部活動へ参加を希望している。
- ・部活動への期待は、「友達と楽しく活動したい」というものが最も高く、楽しみたい、伸ばしたい、向上したいが上位を占めた。

② 中学生（１・２年生）の回答について

- ・休日の活動について、毎週活動したいと回答した生徒は、４８％と５割未満である。
- ・地域のスポーツや文化芸術活動に参加していない生徒は、約７割であった。
- ・休日に学校の部活動がなくなった場合、６割弱の生徒は地域クラブに「参加したくない」と回答した。
- ・地域クラブに参加する場合、５割の生徒は学校部活動と同じ競技・活動を希望し、３割が学校部活動とは違う競技・活動をしたいと回答した。
- ・地域クラブの活動頻度については、毎週活動したいと回答した生徒は３割であった。

③ 保護者の回答について

- ・８割以上が部活動の地域展開について、「知っている」と回答した。
- ・子どもを地域クラブに「参加させたい」と回答した保護者は、約２割であった。７割が「子どもの考えに任せたい」と回答した。
- ・地域クラブを実施する場合の気がかりな点として「送迎の負担」、「金銭的な負担」、「部活動との兼ね合い」、「指導者について」が上位を占めた。
- ・子どもを地域クラブに参加させる場合の毎月の会費等については、「３０００円以下」が最も多く、約４割を占めた。

④ 教職員の回答について

- ・回答者の８割以上が部活動の顧問をしており、そのうち約５割が競技・活動経験のない部活動を担当している。
- ・部活動の指導に負担を感じている教職員は、約７割であり、負担に感じる理由として、「休日の指導や大会の引率」、「平日の放課後の指導」が７割以上を占めた。
- ・部活動を地域クラブ活動に移行していく場合の期待としては、「教員の負担が軽減されること」、「子どもが専門的な指導が受けられること」、「子どもがニーズや目的に応じた活動を選択できること」が上位を占めた。
- ・地域クラブ活動に移行していく場合の心配事として、「学校外での生徒指導が持ち込まれること」、「部活動との兼ね合いや連携に関すること」、「家庭状況により、参加できない生徒が出ること」、「金銭面や送迎での保護者負担が増えること」といった内容が多く見られた。
- ・地域クラブの指導に「関わりたくない」という回答が５割を超え、「関わりたい」（報酬があれば含む）は２割弱の回答であった。

(渡部議長)

まず、5・6年生、1・2年生を合わせた児童・生徒の部分から意見を伺いたい。

(矢吹委員)

アンケートは、大変貴重な資料である。小学生が中学校の部活動に高い期待を寄せている一方で、中学生は週末の活動を減らしたいと思っている生徒が一定数いる。また、思っていたより、小学生が中学校に進学して部活動をやりたいという思いがあると分かったのは、貴重な資料であった。

(渡部議長)

第四中学校区での話だが、先日小学生と話をした際、7割ぐらいが部活動を楽しみにしていると言っていた。一方で、今年の保護者説明会では、「週末は学校にはない活動をさせたいので、部活動には入りません。」と言う保護者も一定程度いた。「原則全員の部活動加入」という時代ではなくなっており、部活動以外の活動をしたい生徒と、部活動を楽しみにしている生徒、双方の時間の確保やバランスをどうとっていくかを課題として考えなければならない。

(小川尚委員)

飯坂地区は、ソフトボールのスポ少を大変活発に行っており、地域の方々に指導いただいている。本校の子どもたちに限っては、部活動に対する思いや願いがあり、自分が活躍できる場として期待をもっている。

(渡部議長)

保護者のアンケート結果について、意見を伺いたい。

(矢吹委員)

福島ソフトボール協会では、昨年度より部活動の地域展開の補足活動として週2回、十六沼公園で夜、練習会を実施している。試合や大会にチームを参加させることが目的ではなく、部活動でやっているものを補足するという活動内容である。参加は自由、費用は無料としている。練習会に参加している生徒の保護者からの話から、中学校や高校で部活動が減少し、生徒が「進学したい学校」と「続けたい部活動」のどちらかを選ばざるを得ない状況が生まれていると思う。進学先について真剣に中学校教員に相談している場面も見られる。小学校から中学校へ進むときも、起こり得る話ではないかと思う。

(渡部議長)

ソフトボールを例に挙げると、市内のソフトボール部は現在4校のみで、合同チームを組まなければ大会に出場できない状況となっている。

(皆川委員)

息子が中学2年生である。他校生がチーム内にいないと出場できない大会があると聞いた。転換期の中で、そうした大会を増やすのではなく、どうにか出場できる大会を増やした方が、子どもたちのやりがいという点でもよいのではないかと思う。もう1点は、子どもは、同じ学校の仲間と活動したいという思いが強いことがアンケートから見えてくる。地域展開を理由に勝利至上主義的なチームを作るところが出てくるということも見え隠れしたり、指導者の養成についても、教育者と指導者とは違う部分もあるので、様々な課題が見えてくる。地域展開をするから地域に丸投げするのではなく、その連携が必要なのではないかと感じている。

(渡部議長)

連携という部分だが、それはどことどの連携か。

(皆川委員)

地域展開していくクラブと学校現場の連携である。子どもたちは、今ある部活動のイメージが強い

ので、学校の友達と一緒に活動したいという気持ちがまだ強いと思う。学校、保護者、そして社会が、子どもをサポートする気持ちを強くもって進めないと、子どもたちが何をしたいくて、何を目的としているのかが見えにくくなってしまう。そこを大切にしていけたらと思う。

(渡部議長)

教職員のアンケート結果について、意見を伺いたい。

(佐藤委員)

教職員のアンケートを見て、現場の中学校の教員は、部活動の指導に何らかの負担を抱えているのだと改めて実感した。私個人としては、専門の種目である部活動を長く担当していた。自分は体育の教員だが、専門外の種目の顧問をやった時は負担感があった。例えば練習試合や大会で、その種目を専門とする顧問のチームと対戦した時に、難しい場面で生徒にどういう指示を出したらよいのか分からず、辛かった経験がある。現場の先生方も、そうした思いをもっていると思う。教職員の負担感をどうやって軽くしていけばよいのか、少しずつでも負担感を軽減できる方法を取ればと思う。

(菊田委員)

アンケートを見て、先生方に負担があることは分かった。ソフトテニス協会も、去年から合同研修会・練習会を企画し、開催している。また、その前から中学生対象の協会主催の大会等も開催していたが、その引率も先生方の負担の要因になっていたと感じた。地域展開ということで、現段階で競技団体側が週末の練習会を実施しているが、競技団体も負担になっている。最初の説明で、推進上の課題として、人材確保、実施の利益、責任の所在等が挙げられた。地域展開を推進するにあたり、競技団体が週末練習会等をどこまでやっていくのか、時期的なものも含めて検討いただきたい。

(渡部議長)

教員の負担、それから競技団体の負担、両方の負担がある。そこをどう折り合いをつけるのか、それともまた新しい形で何か別の形を模索していくのか、それも必要な検討事項だと思う。有識者である小川宏先生からお話いただきたい。

(小川宏委員)

アンケートを見て、思った通りだと感じた。週末は別の活動をしたい中学生が思ったよりも多かった。これまでは週末も含めて部活動だったから、平日はもとより、週末も必ず練習に参加することが当たり前だった。今は様々な活動をしたい、週末は塾にも行きたいということもあるのでグラデーションになっていると思う。

週末の部活動について、今は部活動という存在自体を変えずに、競技団体が合同練習会を実施している。そうすると結局、子どもの活動に対して顧問が責任をもつことになるため、練習会に参加している顧問がいるという話を聞く。

私の考えは、週末、教員は週休2日を確保する。つまり、学校では週末の部活動はできないと宣言する。基本、中学校のクラブ化は、スポ少と似た形である。できる方が責任者になって、クラブを設立する。クラブとして週末の大会に参加するのであれば、平日は、放課後の1時間半程度、週3くらい部活動をする。そうなれば、平日の活動は、今までの同級生たちとそのまま活動できるメリットがあり、さらに、週末は様々な大会に出たい人たちは、身近なところで立ち上がったクラブに参加して、チームを組んで参加する。クラブに参加するにも、同じ部活動の仲間、3・4人で一緒に参加すれば負担も少ないと思う。基本は部活動を中心にやっていけばよいと考える。私は福大附属中学校の校長だが、附属中学校は先に、「週末は、部活動をやりません。」と宣言をした。保護者からは様々な意見があったが、学校でできないなら、自分たちで立ち上げるしかない、クラブがいくつ

か立ち上がりかけている。学校の部活動でも、資格を持った保護者が1人いればクラブになり、附属バレーボールクラブができ、クラブとして週末の大会に出られる。もちろん、受益者負担という問題もあるが、任意で週末にやりたいのなら、スポ少と同じように受益者負担とする。そこまでやらなくてよいとなれば、平日の部活動だけ学校の放課後にやる。学校単位で、クラブを立ち上げていく。ただ少子化であるため、チームが組めないところが出てくる。クラブになっていれば、クラブ間で合同を組むことができる。また、立ち上がったクラブと学校の部活動との合同もあるかもしれない、そうやってだんだん収束していくと私は考えている。

福島市としてクラブを推進する協議会であることから、まずは先生方の週末の部活動に対する思いをきちんと反映させ、週末の部活動は学校の顧問はやらなくてもよいようにする。横並びで一斉に発信しないと、隣の中学校で部活動をやっているのに、なぜうちの中学校ではやらないのかという意見が保護者から出てきてしまう。

(2) 福島市の部活動地域展開・地域クラブ活動推進の基本目標・方針（案）、スケジュール（案）について（事務局）

- 基本目標として、子どもたちがやりたい活動を自分で選択して活動ができるよう、スポーツ・文化芸術活動の場を「学校部活動」から「地域クラブ活動」へ転換し、地域資源（ひと・もの・こと）を生かし、持続可能なスポーツ・文化芸術活動の環境を整備することを（案）として提示する。
- 基本方針（案）として、4つの方針を提案する。1つ目、生涯に渡ってスポーツや文化・芸術活動に親しむことのできる地域環境の整備。2つ目、様々な実施主体による地域クラブ活動の展開。3つ目、指導者の確保と質の向上。4つ目、活動場所、環境の整備。4つを大項目として挙げ、さらに小項目を掲載してあるが、小項目については、資料で確認いただきたい。
- 「地域クラブ活動運営統括団体」を設立し、地域クラブ活動を推進させたい。現段階で未設立だが、この統括団体がハブとなり、教職員を含めた地域人材の人材バンクを整備していく。
- 一定の基準を満たした地域クラブは、福島市として公認クラブとして認可し、活動に対して支援をしていく。
- 教職員を含め、新たにクラブを立ち上げたいという方に対して統括団体が伴走支援を行うようにする。
- ポータルサイト等を通じて、公認地域クラブの情報を、子どもたちや市民へ広く発信していく。
- 地域展開のステップ1として、まずは休日の活動について、子どもたちが自分のニーズに応じて自由に選択できる環境を整備する。選択肢としては、例えば市公認クラブへの参加のほか、民間クラブや公認以外のクラブに参加、学習センター等でのイベントや競技団体等の練習会に参加、または趣味や学習に時間を使うなどが考えられる。
- 地域展開のステップ2としては、休日に加えて、平日の放課後活動も、子どもたちが自由に選択できるようにしたい。このフェーズに入ってくると、一度帰宅してから夜間のクラブに参加するなど、ライフスタイルの変化も想定される。
- 将来像としては、中学生から始まるこの取組を、小学生や大人も巻き込んだ地域全体の多世代交流型のスポーツ・文化活動へと発展させ、地域のスポーツや文化芸術環境を豊かにすることを目指す。
- 今後、学校の部活動についても、例えば週1回程度軽い運動を行うような活動など、時代に合わせた新しい形への「リデザイン」する必要があるのではないかと考える。
- 今後のスケジュール（案）として、国は令和8年度から13年度を改革実行期間とし、休日の部活動を地域展開する方針を示していることから、福島市として令和10年度の2学期に休日の学校部活動を終了するという計画で進めていきたいと考えている。今年度は、推進計画を策定し、今年度末から

来年度にかけて、運営統括団体の設立準備と設置を進めたい。団体設立後は、公認クラブの認定や、人材バンクを通じた指導者の募集を開始したい。

- 現在、陸上や剣道など、競技団体あるいは文化団体主催の合同練習会を実施しているが、まだ実施できていない種目等もあるため、競技団体と連絡、連携をしながら、種目数の拡充も図っていききたい。
- 競技団体主催の週末合同練習会で、子どもたちから生の声を聞いた。活動については満足しているが、活動回数については、1ヶ月に1回ぐらいでちょうどよいとの声が多数であった。保護者も同様であり、活動についてはありがたいとの声があるが、毎週だと送迎が厳しいとの話があった。

(矢吹委員)

そもそもの話と方法論の2つ質問したい。1つは、そもそもの話だが、部活動という文化は、日本独自の文化である。海外に部活動はなく、クラブ活動が主流である。その中で、どうして日本では部活動が発展したのかという経緯をたどり、今後どうしたらよいのかという点も、共有したほうがよいのではないかと。もう1つは方法論だが、指導者の登録と、運営統括団体のお金の問題、指導者の指導料などの発生をさせるのかどうか、会計は誰(どこ)が担当するのかについて、どのように考えているのか知りたい。

(事務局)

日本のよき教育文化の1つとして、部活動がこれまで行われてきたと認識をしており、教育的な意義も大きかった。しかし、子どもの人数が急激に減少し、それに伴い教職員の人数も減少しており、今までと同じような活動ができないのが現状である。10年後はさらに子どもの人数は減少し、各学校単位での部活動では、子どもたちがやりたい活動ができなくなる。地域で学校と協力をしながら、子どもたちがスポーツや文化芸術活動に親しめる環境をつくっていききたい。

(矢吹委員)

国である程度基本を示しているものの、各自治体に任せると言っているように思える。「ふくしま型」と名前がついているので、「ふくしま型」として、人材育成ではないが、福島に社会人として将来帰ってくる道筋等を確立するとか、そういう部分などはないのか。この内容だと部活動がなくなるので対応する。人が少なくなったので、少ない指導者の中で対応するというのは分かるが、その中で何を目指すのか、福島市としてどこを目指すのかという部分が、もう少しあってもよいのではないと思う。

(事務局)

最終的には、これを契機に地域全体の多世代におけるスポーツ・文化芸術活動の場が構築され、中学生はもちろん、大人も子どもたちと一緒に活動したり、または大人同士で活動したりという環境が作られることが理想ではと思う。

(矢吹委員)

競技視点からいくと、トップスポーツ選手の育成を考えると、中学生期から始めるというのは遅い。トップアスリート育成の観点から、活動を小学生世代にも広げるべきではないか。

(事務局)

2つ目の費用負担について、完全ボランティアでは持続可能なものにはならないと考えており、指導者に対しては、報償が支払われるものと捉えている。その場合の財源は、クラブへの参加費を充てたい。会計処理等は、基本的にはクラブごとにやっていくものと現段階では考えているが、会計の負担を軽減できるかという点は、今後の検討の1つになってくる。

(事務局)

地域クラブ活動への移行スケジュールについて、例えば令和9年度からとなると、準備も含めて厳し

いところがあるので、現段階では、令和 10 年度からとしたい。

(渡部議長)

先ほど小川宏先生から、横並びで一斉に休日は部活動をやらなくなることができればという話をいただき、1 つの旗振り役として、その一言は大きいと思う。スケジュールは出してもらったが、場合によっては前倒しもあるのかと思って話を聞いていた。

(小川宏委員)

今年度中に内容等を精査あるいは修正をして、令和 8 年度の段階で公表するという事でよいのか。

(事務局)

公表については、本日の第 1 回目の協議会の内容、資料等について、ホームページへの掲載を考えている。最終的には、スケジュールや全体像も含めた推進計画を、今年度末から来年度始めにかけて、広く周知できるようにしたい。

(小川宏委員)

地域クラブ活動の推進協議会なので、市としてバックアップするので、クラブを立ち上げてほしいという指針でないと進まない。例えば「土日に部活動として参加する大会の場合は、校長の許可のもと部活動として活動」の文言だと、部活動としてまだ活動できるとなり、足並みが揃わない。大会前に練習試合を認めたら、これまでと変わらない。例えば、新潟市のように「土日の部活動はやりません。」と横一線を出せば、その中でできることを考える。そのときに今度は福島市として、指導者への補助金の支援などを考慮することも必要だ。また、クラブは有資格者が必要になるが、指導者の資格取得講習会の開催頻度が少ないため、指導者不足が活動推進の大きな課題となる。福島市として、仮の資格者を一時的に認めるなどすれば、クラブに移行しやすくなる。

(矢吹委員)

教育的な観点から、活動の継続性は非常に重要であり、指導者が転勤などで不在になった場合の対策が必要である。

(小川宏委員)

対策として、福島市が「人材バンク」を創設して代替りの指導者を紹介したり、定期的に指導者向けの講習会を実施したりするのも 1 つの方法である。

(渡部議長)

様々な自治体の話や方法論を、色々と話いただいているが、即答は難しいと思う。この後、10 月に第 2 回、そして 2 月に第 3 回であるが、その時にはもう少し、今のいただいたご意見に対する回答・代案等を提示いただけるか。

(事務局)

今回出された意見を踏まえ、具体的な支援策、統括団体のあり方などを検討する予定である。次回以降の協議会では、これらの検討内容を反映してブラッシュアップした計画案を提示し、さらに議論を深めていくようにしたい。

7 その他

(1) 今後の日程について

- ・ 次回の協議会は 10 月 27 日、第 3 回は来年 2 月 6 日に開催されることについて確認。

8 閉会のことば（進行：後藤係長）